

英文読解の演習 5問

主語・指示語・譲歩と否定の範囲を、英文の根拠から説明する無料教材です。

A4・100%で印刷。問題だけなら1～2ページを指定してください。全4ページを両面印刷しても、問題編と解説編が同じ用紙の表裏に混じらない構成です。

次の英文138語と設問は、院試クラウドが作成したオリジナルの練習素材です。登場する研究・装置・結果は架空で、大学の過去問や実在論文ではありません。特定の入試・英語検定の難易度や出題形式を再現したものではなく、英文の根拠を日本語で説明する練習に使用します。

最初に英文を読み、手元の紙やメモで5問に答えてください。最初は辞書なしで読み、分からなかった語を印で残し、その後に辞書で確認する使い方もできます。これは編集部練習案です。本番の辞書・持込条件は、志望先の要項と問題の指示を優先してください。

英文 138語

[1] Collecting temperature data can help researchers describe changes in a greenhouse. However, a sensor that works well in a laboratory may perform differently in actual use. To examine this problem, a fictional engineering team designed a small protective cover for a temperature sensor.

[2] The cover allowed air to pass through while reducing direct sunlight on the sensor. In a short comparison, covered and uncovered sensors were placed beside a reference instrument. The covered sensors produced readings closer to the reference values during sunny periods. At night, the difference between the two designs was small.

[3] Although these findings are promising, they do not establish that the cover will work equally well in every environment. The comparison was conducted in one greenhouse over three days. Longer observations under different conditions would be needed before recommending the design for wider use.

問1：目的を一文で説明する

第一段落のthis problemは、どのような問題を指しますか。単語を並べるのではなく、日本語の一文で答えてください。

問2：主語と二つの働きを対応させる

第二段落の最初の文について、文全体の主語を英語で答え、カバーが果たす二つの働きを日本語で説明してください。whileの後を、いつか将来起きる予定と読み替えないようにします。



結果と限界を読み取る

前ページの英文を参照して答えてください。解説は3ページから始まります。

問3：指示語の根拠を前の段落から拾う

第三段落のthese findingsは、第二段落のどの結果を指しますか。晴天時と夜間を分けて二つ答えてください。

晴天時

夜間

問4：譲歩と否定の範囲を保って和訳する

第三段落のAlthoughで始まる一文を日本語に訳してください。『有望である』ことと『どこまで裏付けられていないか』を両方残します。

問5：結果と限界を80～120字にまとめる

本文全体を、主な結果、比較した条件、さらに必要な観察を含めて日本語80～120字で要約してください。この字数は演習用の指定で、句読点も一字と数えます。本文にない数値・安全性・費用・実用化の事実を補わないでください。

20字×6行＝120マス。句読点も1マスに書き、80～120字に収めます。

20																			
40																			
60																			
80																			
100																			
120																			

問1～4の解答例と根拠

訳語の一致より、指示語・対比・限定が自分の答案にも残っているかを確かめます。

以下は編集部の解答例です。同じ意味を保つ別の日本語表現も考えられます。大学の採点基準や合格点を示すものではありません。自分の答案で、根拠を示せた箇所と読み落とした箇所を分けて復習してください。

althoughが対比する内容をつなぎ、後ろに主語と動詞を伴う用法は、British Councilの文法解説を2026年10月3日に確認しました。末尾から同機関の一般的な文法説明も読めます。この演習の英文・設問・解答は院試クラウドの独自作成です。

問1：this problemは直前の可能性を受ける

解答例：研究室でよく機能するセンサーでも、実際に使う場面では異なる性能を示す可能性があること。根拠は第一段落のHowever以降です。mayを落とし、『必ず性能が悪くなる』と断定しません。本文は性能の違いの可能性を述べています。

問2：The coverが、通気と日射の抑制を両立させる

主語はThe coverです。空気が通るようにしながら、センサーに当たる直射日光を減らす、という二つの働きが書かれています。この文のwhile reducingは同時に行う働きを付け加えています。主語をairにして『空気が日光を減らした』と読まないようにします。

問3：晴天時の比較と、夜間の小さい差を両方拾う

解答例：晴天時には、カバー付きセンサーの測定値がカバーなしより基準値に近かったこと。夜間には、二つの設計の差が小さかったこと。第二段落の最後の二文が根拠です。smallは差が小さいという記述で、『差が完全にゼロ』とはしていません。

問4：有望な結果でも、あらゆる環境への一般化は立証されていない

訳例：これらの結果は有望ではあるものの、カバーがあらゆる環境で同じようにうまく機能することを裏付けるものではない。Although節の譲歩と、主節のdo not establish that以下を両方残します。『どの環境でも機能しないと証明された』という全面的な否定には読み替えません。

要約例と語句の復習

自分の要約に、結果・比較した条件・さらに必要な観察が含まれているかを見直します。

問5：要約例

架空の保護カバー付き温度センサーは、晴天時に基準値に近い測定値を示したが、夜間の差は小さかった。比較は一つの温室で三日間のみで、広い利用を勧めるには別条件での長期観察が必要である。（90字）

語句を文脈で確かめる

この英文での語句の読み方。別の文脈では意味が変わることがあります

語句	本文での読み方	読み落とさないところ
readings	センサーの測定値	読む行為ではなく、測定器が示す値を指す
reference values	比較の基準となる値	近いと述べている相手を残す。誤差の具体的な大きさは本文にない
these findings	直前の段落で述べた結果	指示語を訳す前に、受けている内容を二文から拾う
Although ..., ...	...ではあるものの、...	前半を認めたうえで後半の限定を読む
would be needed	必要となるだろう	利用を広げて勧める前に必要な観察。追加観察を既に終えたとは述べていない

復習のチェック

- ☐ 名詞の日本語だけでなく、文の主語と動詞をつなげた
- ☐ this・theseが指す内容を前の文へ戻って確認した
- ☐ may、small、not、everyなどの程度・可能性・否定の範囲を残した
- ☐ 一つの温室・三日間という範囲と、さらに必要な観察を要約に含めた
- ☐ 分からなかった語彙・構文・指示語・要約のどこを復習するか分けた

次に直す語句・構文・読み方／解き直す日

参考：British Councilのalthough・despiteなどの文法解説

